防災活動大賞　受賞団体

- 飛騨市立神岡中学校文化部
- NPO法人 防災士なかつがわ会
- チーム本荘

飛騨市立神岡中学校文化部

清流の国ぎふ防災・減災センター
第4回　防災活動大賞

応募作品〔1〕

自ら学び伝える、本気のぼうさい
～ 中学生から広げる防災～

【活動内容の特徴】

自分たちが防災リーダー・防災士となった！

文化部の活動目標は「神岡中学校と地域に貢献する」としている。防災について学ぶことは貢献につながると考え、飛騨市防災リーダー講習会で学び、防災士の資格をとっている。防災士は現在５名、今年度取得予定７名おり、楽しく取り組んでいる。

【団体の紹介】

・飛騨市立神岡中学校
・令和３年１月～現在
・部員数１７名
　(防災士５名＋R4年度予定者７名)
・協力者
　(Edo手嶋さん・坂場校務員さん)
・部活動で自主的に取り組んでいます。

【アピールしたい防災活動の成果】

部活動で「自助」「共助」に取り組んでいる！

自らが学習し防災士となり、知識を深め、防災について身近に感じて楽しく学んでほしいと思い、周りの人に発信している！

「自助」かるた・クイズを使いゲーム感覚で発信！
「共助」かるたやひまわりを地域へプレゼント。地域とつながる！

希望のひまわり

【活動内容の詳細】

「楽しんで学ぶ」をモットーに　～中学生目線で発信～

防災かるた

「小学生でもわかる内容で、楽しく遊びながら防災の知識を深めてもらおう」として作成。飛騨市HP「我が家の防災」と防災リーダー養成講座教本を参考資料に読み札を作成。**試行錯誤しながら１年以上かけて完成**。地域の小学校・保育園・老人福祉センター・図書館等に贈呈した。

命を守る訓練にて「防災・減災クイズ」

防災士メンバーで、**学校が行う「命を守る訓練」に参画**した。岐阜県発行「減災教室」冊子を参考に、**防災・減災について楽しく学び、身近なものにするためクイズ形式で**全校に発信した。

校内防災ウォッチング

防災士岩井さんに、**校内の設備を知ることも大切**と言われ、**元市消防長の坂場校務員さん**と学校内の防災設備を見学し確認する。**非常時に、誰もが当たり前に使えるように全校へ発信します！**

3年生の厳しいチェック
かるた

全校でthinking　time
クイズ

坂場さんに質問中
ウォッチング

【活動成果】

＜実施者から見た効果＞

・**防災士や防災リーダーとなる**ことで、**説得力のある発信**ができるようになった。
・「かるた」や「クイズ」にして楽しく学ぶことを工夫したことで、**防災について興味をもってもらえ、身近なものにできた。**
・地域へも発信したことで、**新聞や施設の広報に紹介され、さらに取り組みが周知された。**

＜参加者等から見た効果＞

「かるた」
・**完成度の高さにびっくり**した。中学生が頑張って作ったものだから、施設の方も喜んでやってくれると思う。

「クイズ」
・**資格をとって教えてくれているから説得力がやばい！**とっても勉強になった。

NPO法人 防災士なかつがわ会

清流の国ぎふ防災・減災センター
第4回 防災活動大賞

応募作品〔3〕

子供から家庭、そして地域に

【活動内容の特徴】

小学生を対象とした防災教室を実施し１２年

◆坂本地域の2つの学童保育所の児童を中心に始めた防災教室が、今では子供たちへの勉強会のスタートとなり、小学校は勿論、家庭そして他地区へ拡大しています。
◆約４時間で様々なプログラムを体験しながら、楽しくかつ真剣に防災について考えてもらう機会となっています。
●コロナ禍における中断が最初の１年ありましたが、その後は要望に応えて、複数回に分散して開催しました。

【団体の紹介】

・中津川市全域
・平成23年1月～現在(約12年)
・実働：約30人、会員100人
・『自分の命は自分で守る』を合言葉に、全ての年代と学校その他様々な場所で、行政機関と連携を取りながら、防災減災の啓発活動並びに、その支援・実践に取り組んでいます。

【アピールしたい防災活動の成果】

近所に住む「家族以外の大人」とつながる

◆この防災教室は、地区社協や民生委員会などの地域の大人たちの全面的な協力のもとで実施され、地域全体としての取り組みに発展しています。
◆また、子どもたちが「家族以外の大人」とつながる機会となり「地域の子どもは地域で守る」「自分も地域の一員として地域のためにできることがある」ということを考える機会となっています。
●消防署との協力の中で市の救急車台数等を知り、怪我しない、命を守るためを具体的に考えています。

子どもから「家族防災会議」につなげる

◆参加した子どもたちから「家族防災会議」につながり、地域との関わりが薄くなりがちな親世代に「地域とつながることが自分の子どもや家族のためになる」ということを考える機会となっています。

【活動内容の詳細】

◆防災紙芝居やクイズ、割れガラス体験、防災借り物競争、段ボールトイレ、毛布担架搬送、救急救命体操、消防署の協力を得ての１１９番通信訓練、我が家の危険個所確認（家庭内DIG）、雷対策、起震車体験、パッククッキング、段ボールでの避難所設営とそこでの家族防災会議など、その年度の大災害の話など交えながら地域の大人と一緒に楽しく体験してもらっています。

【活動成果】

＜実施者から見た効果＞

●既に12年も継続しているこの坂本地区では、子どもたちの防災スキルは格段に向上、上級生が下級生を指導したり、地域の防災訓練で子どもたちが先生役をする場面も出始めています。
●防災・減災対策で重要な「ご近所づきあい」が結局は「まちづくり」につながることを皆が認識し始めています。
●非常に評価が高く年々、実施回数が増加しています。

＜参加者等から見た効果＞

●「いかにして自分を守るのか」具体的な対策を考えること、知ることができた。
●「非常時に家族以外に頼れる人がいる」ことを知ることができ安心した。
●関係が薄れつつある地域とのつながりの必要性を再確認できた。

助けられる側から助ける側へ　「第４章」

【活動内容の特徴】

中学校の災害時の役割・地域連携を体験

■災害を身近なことと考え、「傾聴と共感」を忘れず目配り、気配り、心配りのできる支援者、救助者となってもらうことを目的に行う。
■より実践的プログラムにより、自分に出来る事を考え、気づいてもらう。

【団体の紹介】

チーム本荘
・令和元年4月～現在（約4年）
・本荘中学校2年生　150名
・岐阜市民病院DMAT、地域協力企業
岐阜市関係部署職員、地域防災チーム
大規模災害団員、近隣自治会連合会

【アピールしたい防災活動の成果】

目視・行動することで「助ける側へ」一歩踏み出す

・避難した体育館で情報がないまま待機する「避難者」から、外の避難所からの救助要請（LINE）、仲間の避難状況（QR読み込み）、大規模災害団員から救助援助依頼、DMATのトリアージ搬送等を可視化し、自分が今できることを気づき考える行動することができる。

【活動内容の詳細】

助けられる側から助ける側へ

・生徒協力者募集は、当日朝行う
　◎自分に出来る事があると気づき行動に移す生徒多数
　→大人の係責任者は協力者に短時間で役割を伝える
　⇒災害時に的確な指示を出す（大人の訓練）
・外部避難所からの情報がわかることで受け入れや救助支援対応策が事前に取れる⇒ラインの活用
・クラスが分散しての避難であってもQR読み込みで、素早く避難状況がわかる⇒避難者の入退出が簡単に残せる
・地域（本荘中学校+岐阜市民病院=隣接）環境を知るため、ドローンを飛ばし全員が目視で位置関係を把握し各々が気づき・行動できることを考える
・災害発生直後から活動できる機動性を備えた医療チーム（DMAT)の動きをまじかに見て、助ける側になることの必要性を直に感じ取る
・大声を出さずに人を誘導する手法（ピクトグラム看板）は、コロナ禍における避難所運営に生かされる

リヤーカーでの搬送

大規模災害団員と救助活動

視覚障碍者の方誘導

受付業務担当

市民病院への搬送（DMAT）

【活動成果】

＜実施者から見た効果＞

◆「待つだけ避難者」と「行動できる避難者」の差は大きなものである。中学生は大人が気づかない支援策を発案し、弱者に寄り添い安全に避難所へ誘導できた。
◆他地域で、実績を収めている活動を学び、本活動に活かすことが出来た。
◆中学生は防災活動の牽引役と感じた。

＜参加者等から見た効果＞

●しっかりと考え、弱者の誘導も的確に行う中学生に感心しました
●抱え込まずコミュニケーション力をフルに発揮し、最善策を考える中学生の姿勢には大人が学ばせてもらいました。
●情報が可視化されることで、状況がわかり落ち着いて行動が出来た。

防災活動大賞特別賞　受賞団体

- 岐阜県立大垣特別支援学校

岐阜県立大垣特別支援学校

清流の国ぎふ防災・減災センター
第4回　防災活動大賞

応募作品〔7〕

「やってみなくちゃ　分からない！」
～学校・家庭・地域と繋がる　防災の輪～

【活動内容の特徴】

主体的な防災教育　学校の取組みを家庭や地域へ

・経験のないことを自分に起こりうることとして捉えることが難しい児童生徒が、災害を疑似体験したり、主体的に考えたりしていく実践。
・防災の取組みを発信し、家庭や地域と連携し、命を守り切ることができるようにする。

【団体の紹介】

・大垣市
・令和３年４月～現在(２年)
・児童生徒２８３名、職員１６7名
・IAMASと連携して新たな防災教育の教材の作成を行ったり、本校の取組みを地域に発信したりしている。

【アピールしたい防災活動の成果】

命を守ることのできる子の育成と助け合える社会へ

主体的で体験的な活動を行い、生涯にわたって防災への意識をもち続けることができるよう実践を重ねている。また、学校の取組みを家庭と連携して進めたり、地域へ伝えたりして、いざという時に助け合える関係を構築していくための一歩を踏み出している。

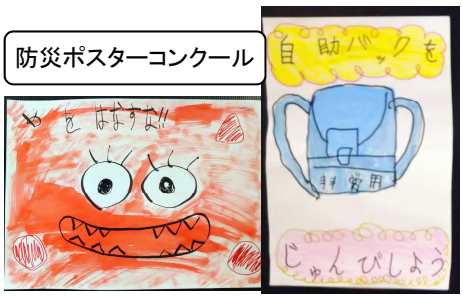
生徒が
デザインした
防災キャラクター
「びっくりす」

【活動内容の詳細】

主体的で体験的な防災教育と学校から家庭・地域への発信

（１）VR・ARを活用した防災教育（IAMASと連携）
　・AR技術を用いた豪雨体験
　・VR技術をを活用し、地震や浸水害発生時の状況を体験し、その対応を考える学習
（２）スクール防災リーダーを中心とした活動
　・生徒会役員を中心に児童生徒への防災の啓発活動を行う目的で発足。
　・防災ポスターコンクールや校内DIGを実施
（３）家庭と一緒に取り組む活動
　・体験期間を利用した災害伝言ダイヤルクイズの実施
　・備蓄確認月間に行う備蓄品のチェック
　・減災力テストの実施
（４）地域との連携
　・学校で行う防災教育の見学
　・避難所運営協議会の実施
　・共生社会を目指すフレンズクラブの創設

防災ポスターコンクール



AR・VRを用いた防災教育

【活動成果】

＜実施者から見た効果＞

●多様な防災教育を、複数組み合わせて、適切なタイミングで行うことで、児童生徒の防災への意識が高まり、自分で考えることができる場面が増えた。
●家庭や地域と連携して取り組んでいくことで、子どもたちだけなく、家庭や地域の防災への意識を高めることに繋がった。

＜参加者等から見た効果＞

●「早く逃げて」「２階の方が安全だ」「水がいっぱいで怖い」等の意見が多く聞かれ、災害の怖さを知り、防災の大切さを感じる学習ができた。
●地域の方が、防災教育や避難所生活を知ることで、本校への理解が高まり、災害時に互いに助け合う一歩となった。